

## 「大町桂月と、龍頭が滝」 (その3 桂月が選ぶ日光の滝ベスト10：後編)

桂月が押す、日光の滝ベスト10の中から、①華厳滝（けごんのたき）②霧降の滝（きりふりのたき）③湯滝（ゆたき）④龍頭の滝（りゅうずのたき）⑤裏見の滝（うらみのたき）⑥寂光滝（じゃっこうのたき）を、今回、紹介します。

①**華厳の滝** 「日本三大名瀑」のひとつ。中禅寺湖の湖水が、97mの岩壁を一気に落下する、圧倒的なスケールを持つ滝です。中ほどには、いくつもの細い滝を従えていて、神々しい雰囲気もある滝です。

②**霧降の滝** 「日光三名瀑」の一つ（残りの二つは、華厳の滝と裏見の滝）。上下2段になっていて、上段は25m、下段は26m、全体の高さは75mです。下段の滝の水が細かくなって、霧のように落ちていくことから、この名前がついたといわれています。葛飾北斎は、「下野黒髪山 ぎりふりの滝」と題して、この滝を描いています。

③**湯滝** 垂直に水が落ちるタイプの滝ではなく、溶岩が固まってできた溪流状の岩壁を、水が豪快に流れ滑り落ちる滝です。高低差70mで、長さは110m。

④**龍頭の滝** これも溪流状の岩壁の上を210mにわたって、幅10mで水が滑り落ちる滝です。滝壺の近くで、大きな岩で滝が2分されていて、その様子が、龍の頭に似ていることから、名づけられたといわれています。

⑤**裏見の滝** 高さ20m。「松笠の龍頭が滝」と同じように、滝の裏側に空間があり、不動明王が祀られていて、昔はお参りができたようです（現在は入れません）。松尾芭蕉が、1689（元禄2）年、奥の細道の行脚の際に日光を訪れ、この滝の裏に入り、「暫（しばら）くは 滝にこもるや 夏（げ）の初（はじめ）」と詠んだことでも有名な滝です。

⑥**寂光滝** 「七段の滝」「布引の滝」とも呼ばれ、7段になって、白い布を垂らしたように水が落ちる滝です。弘法大師がこの滝にうたれ、修行したともいわれています。

桂月が面白いと思う滝は、どれもみな、美しく見事な滝ですね。



華厳の滝



霧降の滝



湯滝



龍頭の滝



裏見の滝



寂光滝

（写真については、栃木県観光物産協会のホームページに所収されているものを、承認を受けて掲載しています。また、滝の紹介は、栃木県観光物産協会や日光市公式観光サイトなどにある情報に基づいています。）